

平成27年度 第1回学校評議員会報告

I 開催日時 平成27年5月27日（水）9：35～11：45

II 内 容

- ・授業参観（9：35～10：35）
- ・学校評議員委嘱

1 開 会（10：40）

2 報 告

- （1）平成27年度学校経営方針について（校長より）
- （2）平成27年度各学部経営方針について（各学部長より）
- （3）その他（学校概要、児童生徒の実態、進路状況等）（副校長より）

4 提 言

< A 様 >

保護者にとり、共通の願いとは「身辺自立」「社会自立」「コミュニケーションの確立」であり、最終的には（可能であれば）「一般就労」であろう。そのことを見据えての、小中高12年間を通した指導が理想である。また、学部主事から身だしなみ指導について紹介があったが、できれば身だしなみについては小中学部段階のうちに確立させ、高等部段階では進路実現に重きを置いた指導をしてほしい。

< B 様 >

今年度も、既に「出前授業」「運動会」での交流が行われているようだ。当該中学校の生徒にとっても、丁寧な事前指導により見通しを持つことができ、且つ、当日は多くの感謝やお褒めの言葉をいただくことにより、生き生きと活動し、貴重な経験となっているであろう。教員からの促しがなくても、90名の生徒のうち46名がボランティア登録をしているということなので、積み重ねてきた交流の成果であると感じている。

< C 様 >

学校資料の障がいの分類について、見直してはどうか。

障がいの有無に関わらず、「自我の形成」をはかることが大切。「自我の形成」があつてこそ、指導や経験が積み重ねられると思う。支援学校における教育をとおして育ててほしいと考える。

<D 様>

高等部2年生のうちから進路を見据えて実習をしていることは、企業側にとっても支援者側にとっても早期から生徒を知るという点で大変ありがたい。ここ5年ほど、障がい者の就職率が記録更新中であり、今年度末も就職できる枠はあると思われるが、働く力はあつたとしても、継続することが難しい場合もある。就職後も、学校と企業が手を携えていかなければならない。また、本日は医療的ケアの必要がある生徒の授業も参観させていただいたが、このような生徒に対する宮古圏域における卒業後の支援は厳しい現状にあると思われる。このことについても学校と地域との協力体制が必要であろう。

5 閉 会（11：45）